

■梅屋庄吉 孫文と運命的出会い、その革命活動を支援すべく、映画興行で次々ヒットを飛ばして資金獲得。

うめやしよきち

明治維新・1868= 長崎で生まれ、貿易商兼精米所(梅屋商店)を営む遠縁の梅屋吉五郎の養子になる。(梅屋商店)の借家に住んでいてまもなく長崎を後にした岩崎弥太郎に背負われる奇縁。

文明開化の町・長崎でやんちゃに育ち、
中島川べりで遊んでいて川に落ち、仮死状態で救出される。

明治6年政変 1873= 5歳:

初の民間工場1875= 7歳: 開校したばかりの榎津小学校に入学。いきなり、4年分飛び級し、

西南戦争・1877= 9歳:

大久保暗殺・1878=10歳: 卒業するや、大金を持出し家出、大阪から京都に足を伸ばし、遊郭に行つて追出されるほど早熟で、

長崎に戻つても、

明治14年政変1881=13歳:

新体詩抄・1882=14歳: 養父母の猛反対を押し切つて、(梅屋商店)の船で上海へ密航、初めての外国大都市に強い刺激を受ける。

秩父事件・1884=16歳: 長崎くんち盛上げ役から傍若無人となった無頼漢グループ(白ドッグ組)が中国人をいじめるのに、正義感から決闘を挑み、精米所の若者ら率いて劣勢ながら圧勝、金比羅山騒動として語り伝えられる。

帝国大学始・1886=18歳: サンフランシスコに向かうアメリカの帆船に乗り組み、アメリカ人の中国人への扱いに憤激するうち、船が火災となり溺死しそうなところを、スペイン軍艦に救助され、マニラに上陸、米領事の計らいで神戸に送り届けられる。長崎に戻つて、凶作対策に便乗しコメ輸出で一攫千金を夢見るも、関稅復活で大損失。

帝国憲法発布1889=21歳:

大津事件・1891=23歳: アンチモニー開発に目をつけ、熊本県湯山などで計画するも、試掘に終わる。

大本教・1892=24歳: 長崎米穀市場が設立されると、米相場に手を出して大失敗、返済を養父母におつつけて長崎を逃出し、

郡司千島探検1893=25歳:

日清戦争始・1894=26歳: *香港からシンガポールに渡つて、からゆきさん中村トメ子と出会い、写真術を習うと、
*香港に戻つて、写真館(梅屋照相館)を開業、在留日本人の顔的存在となり、宮崎滔天と出会い、中国人・欧米人も多数出入りする。大井憲太郎と南洋開発に着手するも、日清戦争が始まり中断。長崎に戻ると、臨終間近の養父の願いでトクと結婚するが、家業は妻にまかせて、再び大陸へ。

日清戦争終・1895=27歳: *孫文と運命的出会いをし、広東省での挙兵計画に失敗した孫文の革命を生涯支援することを盟約。

八幡製鉄始・1897=29歳:

子規句歌革新1898=30歳:

Bushidou・1899=31歳:

孫文が日本に亡命。
フィリピンでの米西戦争に際し、アギナルドの独立軍に入隊するも、アメリカ勝利後、独立阻止となり、孫文とアギナルドを結びつけようと、長崎から独立軍に弾薬輸送を試みるが輸送船が沈没(布引丸事件)。この間、香港で客死した日本人のために、写真を添えた墓碑を建て続ける。

日比谷公園・1903=35歳: 養母が死去したため、(梅屋商店)を守つてきたトクを香港に呼寄せ、ようやく共に暮らし始めるも、

日露戦争始・1904=36歳: *貸金した者に革命支援を清政府に密告され、香港を追われて、再びシンガポールに渡る。露天映画館をつくつて興行を始めると、次々大当たりとなり、大金と多数のフィルムを持って長崎に凱旋帰国。

日露戦争終・1905=37歳: 宮崎滔天の斡旋で孫文と黄興が同盟会を発足させると、映画からの巨利で支援。長崎の芝居小屋で初の映画興行をすると、上京、映画会社(Mパター商会)を設立し、

満鉄発足・1906=38歳:

韓国反日暴動1907=39歳: 料金や宣伝などを工夫して(新富座)で初興行し、日本の草創期映画界にデビュー。神社寄付条件に華族の支援を受けていたこともあって、連日満員の大成功となり、続いて巡業に出て、京阪地方でも大評判。

アヲボ創刊・1908=40歳:

伊藤博文暗殺1909=41歳:

大阪千日前の寄席を改装してMパター商会映画の(文明館)としたのを皮切りに、次々常設館を開設。
映画制作にも着手し、初の作品「六玉川」封切り。以後、大勝館の娘起用した「歌扇映画」が次々ヒット。
三越呉服店と提携して「元禄花見躰」を制作し、元禄模様の着物が全国的ブームとなる。また、板垣退助から国技館で映画をと依頼され、自費で「大西郷一代記」も制作。映画雑誌(活動写真)を創刊。

韓国併合・1910=42歳:

伊藤博文の暗殺をロシア技師が実写して大スクープになると、高額を払って輸入し日本初上映、国葬をカメラ忍ばせ撮影して大当たりとなり、報道映画での劣勢を逆転するも、競争激化で不渡り手形を出す。社会貢献のためにと早くから教育映画を輸入して先見の明を示し、

大逆事件判決1911=43歳:

辛亥革命にも撮影隊。海外の教育映画370本を目錄紹介した「活動写真百科宝典」を自費出版。白瀬南極探検隊後援会長の大隈重信から懇願されて撮影を請負い、日本初の本格的ドキュメンタリー映画を制作し、

明治天皇没・1912=44歳:

国技館で初公開後、全国巡回で、後援会に大きな利益をもたらす。再建のため(エム・パター株式会社)を設立し専務となる一方、映画会社統合した(日本活動写真株式会社(日活))構想実現に奔走するも、明治天皇崩御で中絶。中華民国が成立し、孫文が臨時大總統に就任すると、支那共和国期成同盟会設立に尽力。

大正政変・1913=45歳:

袁世凱に追われ、再び亡命してきた孫文招いて辛亥革命フィルムを上映。

この間、袁世凱打倒めざす孫文を様々な形で支援工作。

21ヶ条要求・1915=47歳:

孫文が宋慶齡と結婚するに際し、梅屋邸で披露宴し花嫁道具も揃えるなど、妻トクとともに世話をする。

民本主義・1916=48歳:

以後3年かけ、タルボットらの著書を自ら翻訳して「活動写真撮影術宝典」(第1~第5集)を刊行。

原敬首相暗殺1921=53歳:

中国の革命志士の憩いの場のためと、千葉県岬町に別荘を購入。駆落ちしてきた柳原白蓮も逃避生活。

水平社結成・1922=54歳:

関東大震災・1923=55歳:

関東大震災に遭遇すると、ウナギの蒲焼背負って救助に向かい、朝鮮人虐殺に憤激。

治安維持法・1925=57歳:

孫文が「革命未だ成らず」と遺言して死去、打ちひしがれるも、東京で孫文追悼会を開き、

円本時代始・1926=58歳:

自らの半生綴った小冊子「わが影」を出版。

世界恐慌・1929=61歳:

南京の中山陵での孫文の国葬に招待されて参列、娘の嫁入り資金まで使った孫文の銅像4基を寄贈。

満州事変・1931=63歳:

上海から帰国し、映画「大孫文」制作のため資金集めに奔走するも、日中関係の急速な悪化で、断念。

帝人疑獄事件1934=66歳:

失意のなか、持病の喘息に耐えながら、岬町の別荘に閉居、中国要人との関係で軍部からの圧迫も受け、*日中問題打開のため、広田弘毅外相を説得すべく上京しようとして、三門駅で倒れ、没した。